

【プログラム4:コペルニクスの発想法 ～気になるところはいいところ～】

☆ねらい：いつもと違う方向から物事を考えたり見たりすることを通して、多様性に対する開かれた考えをもち、自尊感情を高めたり、友達とのかかわりの輪を広げようとしたりする。

《プログラムの概要》

キーワードの例	多様な考え方
時 間	25分
人 数	何人でもできる
活動形態	グループ
準備物	付箋紙またはカード（1人10枚程度を人数分）、広めの用紙（グループに1枚）
主な活動	①自分の長所と短所について考える。 ②逆転の発想を知る。 ③考えたことを紹介する。
気を付けること	○逆転の発想を知り考えることを通して、自尊感情を高めようとする気持ちを持たせることが大事。進行役はそのことを踏まえ、言葉かけをする。
備 考 (アレンジ等)	※講座の時間によって、自分の長所や短所を考える活動を時間をかけて行うこともできる。
ステップ（中高生 期）編との関連	No12：プラスの表現～認め・ほめ・励まし・伸ばそう～

※本プログラムで捉える「コペルニクスの発想法」とは、

コペルニクスは、ポーランド出身の天文学者です。コペルニクスは、当時主流だった地球中心説（天動説）を覆す太陽中心説（地動説）を唱えました。

「コペルニクスの発想法」とは、「物事の見方・考え方を逆方向から考えてみよう。」ということです。

【プログラム4：コペルニクスの発想法

～気になるところはいいところ～

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 [キーワード] ○多様な考え方
22分		2. 長所と短所について考える。【10分】 (1) 4～5人のグループを作る。自分の「長所(いいところと思うこと)」を1人1つずつ順番に(時計回りに)言う。〈2分〉 ※時間いっぱい、何回も話す。 ※始める前に、人と比べて優れているところではなく、自分自身がいいと思うことを言うように指示する。 (2) 自分の「気になるところ」を付箋紙やカードに書き出す。〈3分〉 (3) 書いたことをグループの人に紹介する。〈5分〉 ※紹介するとき、付箋紙やカードを見せ、広めの用紙に置く。(貼る) 3. 逆転の発想を知る。【12分】 (1) 逆転の発想を知らせる。〈3分〉 「気が強い」→「自分の考えをもっている」 「わがまま」→「自分の意見を通しぬく」 「言い方(言葉)がきつい」→「はっきり言う、正直に言う」 (2) 上記「2(2)」の活動で出し合った自分の「気になるところ」を、逆転の発想を使って考える。グループみんなで考える。〈5分〉 (3) (2)で考えた逆転の発想の中で、全体に紹介したいものを1つ紹介する。〈4分〉
2分	全体	4. まとめ【2分】 誰にでも長所や気になるところがあるが、長所を伸ばしていくことは大事なことだ。自分は●●だ、この人は◆◆だと決めつけるのではなく、気になるところも逆転の発想でとらえたり、プラスの表現(肯定的な言い方、優しい感じのする言い方)で考えたりすることも必要なことである。いろいろな見方、考え方があることを知り、取り入れていくことで、自分や友だち、家族の大切さを認めることになり、それが豊かな関係づくりへとつながるだろう。 ※対人関係においては、自分の言い方、話し方で相手が不愉快な気持ち、イヤな気持ちになっているような場合は、改善していこうすることも大事。

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・ある1つの方向からだけの考えではなく、多方面からの見方・考え方があることを知ってほしい。そうすることによって、家族や子どもとのかかわりも深まるだろう。